

第5回 浦河町総合計画審議会議事録

開催日時 平成29年3月1日(水) 16時00分～17時45分
開催場所 浦河町役場 2階 集団指導室
出席委員 18名(早坂誠会長、小林司会長職務代理者、武田宗務委員、神原大輔委員、菅正輝委員、高村祐太郎委員、齋藤善厚委員、富田貴憲委員、土谷進委員、新保雄司委員、木内稔委員、上田正則委員、上新雅人委員、津澤静子委員、小林美代子委員、村下知宏委員、杉山綾子委員、野上由佳委員)
欠席委員 6名(遠山寛委員、濱谷雅樹委員、富永孝幸委員、小林孝範委員、永田善美委員、三浦敦子委員)
浦河町出席者 2名(柳谷企画課課長、葛西企画課主幹)

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 審議

資料1：第7次浦河町総合計画基本構想(案)について事務局より説明

【A委員】 JR日高線が廃止決定というような報道があったが、P8のJR日高線に関する記載は変更するのか

【事務局】 日高管内7町では、あくまでも早期復旧をめざす立場は変えていないので、このままとしたい
(修正案のとおり承認)

資料2：第7次浦河町総合計画基本計画(案)

政策I「郷土愛に満ちた人を育てるまちづくり」について

【B委員】 P16「2. 乗馬普及」の乗馬療育について、社会福祉の方に入れたほうがいいのか。また、個別団体名が出ているがどうなのか。

【事務局】 団体名に関しては修正。福祉の部分にも乗馬療育の記載はある。ここでは乗馬の推進に付け加えるかたちで乗馬療育について掲載。

【C委員】 P2とP4の2. 家庭・地域・学校が連携した教育環境の整備の、「親子で地域の事業に参加しやすい環境を整備し、」というところで、親が参加できず、子どもだけで行かせられないから参加できないという家庭が結構ある。親子にすると、参加人数が増えないのではないのか。「異年齢の子ども同士が集まる機会が減少し、」とあるが、放課後の集まる場所、児童館などの拡充が一番無理なくできるのではないかと思う。P5の施策②地域から信頼される学校づくり、1. 幼児教育の充実のところの②で、「教員や保育士の指導力の向上、スキルアップを図る必要があります」とあるが、先生方は今ですら、いっぱいいっぱいスキルアップはなかなか難しいと思う。逆にもっと心の余裕を持って、子ども達と接する時間があれば、スキル

アップより、心と心を通う関係づくりが信頼につながるのではないかと思うので、そちらの方を大事にしてあげたらどうか。P7、2. 義務教育の充実の③で「障がいのある児童生徒一人ひとりの教育ニーズに応じて適切な教育支援を行う」のところで、子どもにあわせた、余裕を持った配置も大事だが、私が小学校の時は、クラスに入れる子は、障がいのある子も入って、一緒に学んでいた。そういう子がクラスにいて、みんなの心の育ち具合が全然違う。その子を見て、みんなで助けてあげなきゃとか。必要な子にはそういう支援も必要だが、できる限りみんなで一緒にやっていくところが、健常者の子達にとってもすごく大事なことはないか。多様性のある中で育てることが、心の発達、豊かな心にもつながるのではないかと思う。

【事務局】 貴重な意見として担当に伝える。親子で事業に参加という点については、地域の中で親子と一緒に学んでほしいという思いがある。

【B委員】 総合計画に関する学習会をした時、P2、2. 家庭・地域・学校が連携した教育環境の整備、②「少子化に伴い、異年齢の子ども同士が」のところ、少子化の部分で、地域ごとに児童生徒数が全然違う。少ないところだと、中学校に上がり、高校でいきなり百人単位のコミュニティにつながっちゃうのがちょっと不安という話がある。子ども同士が異年齢以外に、エリアを超えて交流する場づくり、つながりづくりの場がほしいという意見があった。少年団は一人が欠けたら、チームが成り立たなくなってしまうので、辞めるに辞めることができないとか、子どもが楽しむ余裕がないという部分もあるという話を聞いていた。人口減少の中で、子どもがよりよく過ごせる環境づくり、広域でのコミュニティづくり、つながりづくりをどこかに組み込んでほしいなという声があった。

【D委員】 地域に馬があるのは浦河町の特質だと思う。浦河町に馬事資料館があるので、乗馬普及だけじゃなくて、馬の文化、地域文化に根ざしたものについて、馬事資料館を活用して何かできないか。入ってみたら、中身は濃いものがいっぱい展示してあり、催しとかもやっている。ぜひ活用してほしい。

【事務局】 P13、2. 文化財の保護・活用の部分で、馬文化というキーワードを入れたい。

政策Ⅱ「健やかに暮らせるまちづくり」

施策①児童福祉の充実（P19～P22）について

【B委員】 P20、1. 教育保育サービスの充実、「子育てと仕事の両立を支援するため」の部分で、働きながら子育て出来る環境をつくれますというのをもうちょっと打ち出してもいいのでは。

【A委員】 P22の②、はまなす学園に関して、知らない人もすごく多い。悩んでいるなら、はまなす学園もあるし、ことばの教室もある。いろんなところに相談できますよというのをもうちょっとアピールしていったらいいのかなと思う。

【事務局】 何らかのかたちでお応えできるようにしたい。

【B委員】 異世代交流の場づくり、地域で支えるしくみづくりというのを、外から来て地縁、血縁がない方の子育てを地域全体で支える。外から来た人も安心して子育てができるような制度の拡充が必要だと思う。

【C委員】 共働きでも子育てができ、仕事もあきらめずにできること、移住をするなら、産婦人科が

あって、そこから育児をずっと支え続ける町づくりにしたいというところをもっとPRしてほしい。私も頼れる親戚等はいないので、いざという時に頼れる細かなサービスがあればいい。町が主体となってやってくれると、移住してきても安心になる。

施策②健康づくりの推進（P23～26）について

【C委員】 P23、3. 子どもの健康を守る環境づくりの中で、②の喫煙率やたばこの害や、家が遅寝というようなリズムになっているなら、親よりも子ども達に直接働きかけるという方が有効なのかなと思う。P24、4. 乗馬療育のところ、私の友人の子が乗馬療育に通っているが、首がすわって1歳半くらいのときから、乗せてもらっていて、乗馬療育がものすごく、その子の成長にとって支えになっているという話をしている、ぜひ今日伝えてほしいと言われた。動物に触れることで癒されたり、感覚が鋭くなったりというものもあるが、乗馬することで体幹が鍛えられるという体の面と、心もすごく成長し、馬からいろんなところに派生して、お馬さんは何を食べるのか、草を食べる。ではこの草の種類、名前は何かとか。そういうのを考えたりとか、動物全体に興味広がっていったりとか。心と体、両方にもものすごくいい影響が出ていて。乗馬療育のおかげで先生がびっくりする位、心身ともに育っているということ。あと、浦河は馬産地なのと、町の乗馬公園があり、支える土台がしっかりしている。町として取り組んでいるというところをもっと全道、全国に広めて、乗馬療育を求めている人にもっと届くようにPRしたらいいのではないかな。今は町内の人しか乗馬療育を受けることができないのかとその人が言っていたが、これが例えば隣町の同じ日高の中でも、やりたくても町外だからできないというところにもうちょっと門戸を広げて、広く受け入れると浦河の活性化にもなると思うし、馬に関する、乗馬療育に関することを職業にもできないかと言っていた。例えば、厩舎の仕事とか、職業としても開拓できるのではないかと。

【事務局】 町も含めて乗馬療育というのは、すごくいいものだというので取り組んでいるので、今後色々なしくみをつくりたい。

【C委員】 料金が安くなければ続けられない。町民だからすごく安いので、続けることができるというところが、本当にありがたいと友人は言っていた。そこはもっと強みで出してもいい。

【A委員】 さきほど、たばこの話があったが、興味を持つのは、高学年、中学生に入ってからだと思うので、早い段階で授業に組み込んで、喫煙はこんなによくないということを教えてあげることが必要。

【C委員】 たばこもネットのモラルとかも自分の身は自分で守るというのを前提に、子ども達にどんどん教育していくのが大事。

【F委員】 乗馬療育をするうえで、馬に乗せて横について補助するというサイドウォーカーを育てなければいけない部分もあり、なかなか大変なことなので、仲間づくりも必要だと思う。

【事務局】 関係団体でも研修生を入れて、人材育成にも力を入れている。

【B委員】 乗馬療育用馬の生産に関して、地元の産業の牧場をやっている方との接続が、まだ弱い部分があると思うので、この5年間で検討していくというのがあっていいと思う。

施策③医療体制の充実（P27～28）について

【B委員】 基本構想でもあったが、産婦人科と小児科の維持。子どもを産み、育てられる町というのを文言に入れていただければいいのかなと思う。移住推進やその他の産業もそうだが、産婦人科、小児科がないと子どもがいる家庭は移住してこないと思う。お医者さんに選ばれる町づくり、町として、お医者さんが移り住んできて、開業するなり、勤めるなりしやすい環境づくりが必要だと思う。

【E委員】 P27、施策③医療体制の充実は、現況と課題の部分で、コンビニ受診が医者や看護師が続かないという一つの原因となっていると思う。まちの病院に対する愛着というか、お医者さんがここにずっと住んでほしいという願いが欠けた中で、もうちょっと受け入れる体制が必要なのではないか。せっかくなら来ていただいているのだから、もっとあたたかく受け入れて、町民と医療現場がもうちょっといい関係になる体制にしなければいけない。

施策④高齢者福祉の充実（P29～31）～施策⑦社会保障の充実（P36～38）について （意見なし）

政策Ⅲ「活力を生み出すまちづくり」

施策①農業の振興【農業構造】（P39～41）について

【A委員】 以前、給食委員というのを2年やらせていただいたときに、オール浦河産給食の日の試食会に参加させてもらった。浦河でお米がとれることをそれまで知らなくて、こんなに浦河の食材で給食ができるんだという、子どもとの会話のきっかけにもなって、すごくよかった。今後もメニューの工夫などをして続けてほしい。

施策①農業の振興【軽種馬】（P42～44）～【酪農・肉畜】（P45～46）について （意見なし）

施策①農業の振興【耕種】（P47～48）について

【I委員】 目標値で米の生産額が下がっているが、下がった目標値でいいのか？

【J委員】 現状、昔の減反政策がもう廃止されるので、どんどん米農家は辞めていって、今残っている人がどうやって維持するかという状況。辞めて、採草地にしている。今、肉牛が高くて、肉牛の方が伸びているという状況で、前の方（P45～46）に出ていたが、肉牛もここ数年は、高く売れているが、今後、肥育というか、スーパー、レストランに行く段階では、どこかの時点でやっぱり高止まり、下がってくるという傾向にあると思う。高齢化の問題もあり、どうやって各生産を維持するかということがなかなか大変。機械が関わる産業なので、米についてはそういう現状にある。

【K委員】 消費者の立場からすると、地産地消を推進してほしいと思う。でも逆に生産者の立場からすると、より高く買ってくれるところに出したいというのがおそらく本音。農家が減ってきているのは、労働力と対価が合わないなど、他の分野の方の仕事をを目指す方が増えてきたのが現状。今、生産者は、需要者、消費者が何を求めているかを把握したい。いちごでも高品

質のものが求められていると言われているが、実際、夏いちごは余っているときは、余っている。今はケーキ用として出しているのですが、関東圏や西日本では暑くて、夏場にケーキを食べないので余る。では、夏いちごをつくっているのであれば、ケーキではなくて、違う活用法、例えばアイスなどの冷たいもの、夏場に需要があるものに使い道がないのかと。生産者がそれを調べることはなかなか難しいので、そういう情報がほしい。新規就農者もどんどん入ってくるのはありがたく、選果場の推進とかも書いているが、そのいちごの生産以外で働いてくれる労働者の確保、それが伴わないと。労働者の不足は農業分野だけではないと思う。そういったところにも取り組んでほしい。農作物というのは、一般の家庭でも作れてしまうもの。付加価値をつけてどう売っていくかが重要。そのためには、特別栽培米とか、ブランド化もいいが、作るまでにどういう過程があって、それに対して生産者がどういう風に汗水を流していますよという情報など、そういうものを発信させてもらえたら、またちょっと違うのかなと。なので、ふるさと納税を浦河にしてくれた方に、相手側が了承すれば、産地からのおたよりではないですけども。「旬のものが出来上がりました。いかがですか」というような。一回寄附してもらって、はい、終わりではなくて、こちらから時期が来たら、情報を発信していくというようなことをすすめてもらいたい。

施策①農業の振興【農林業の被害防止】(P49～50)について

- 【K委員】 農業被害の目標値で、今1億1820万円を目標として5000万円までとなっているが、生産者側からすれば、ゼロが好ましい。ゼロにする程シカを獲ってしまうといろんなバランスがくずれてしまうのでゼロにはできないと思うが、例えば、電気柵をかけるにあたって、設置の助成とか。シカが減って被害額が半減したからといって、生産者はよしとはしないと思うので。ゼロに限りなく、シカを近づけない対策をしていただけるとうれしい。
- 【事務局】 生産者の声としてゼロが望ましいのは理解できる。町としては電気柵の補助があるので、駆除と他の対策をあわせていきたい。
- 【A委員】 駆除したシカの活用は難しい？
- 【事務局】 なかなか、難しい。肥育場所があればいいが、撃つ場所や血抜きの問題などもある。
- 【B委員】 アライグマも、今、浦河がひどくて、まだ様似はそれほど被害がないと聞いた。次はこの被害が出そうだという予防みたいなものは、やっていたりするの？
- 【事務局】 予防が出来ない。アライグマは賢くて、とうもろこしでも熟しておいしいものから食べていくらしいという話は聞いている。対策は練りたい。
- 【B委員】 様似町では、酪農学園大学と地域おこし協力隊がアライグマのアンケートをやったようで、予防などの調査、研究で被害防止できるなら、そういう調査、研究が盛り込まれてもいいのかなと思う。

施策②林業の振興 (P51～53) について

- 【C委員】 浦河は実はすごい森林が多いというのを聞いて、海と牧場のまちに活用されていないのもったいない。木質バイオマスの記事が新聞に出ているのを見て、そういう活用や、建材とかに使われるのもいいが、浦河は食べ物以外の特産品がないので、町の木を使ったおみやげ

になるようなもの、クラフト製品をもっとつけれないか。例えばやりたいという人に補助をするとか。私は料理をつくるのが好きなので、浦河の特別栽培米、そこにできれば浦河の塩を使って、おにぎりを作って、それを町産材などの経木などを作って包んでという。そういう三点セットみたいにして。そういうキッチングッズとか、木ハガキ。手軽に扱えて、価格も安いものを例えばアエルに置くなど、もっと活用できたらいいと思う。

【事務局】 木材の価格が、最盛期の4分の1になっており、天然林についてはあまり切り出さない。一部を生まれたお子さんに木育というかたちでお皿とおもちゃを町の山から切ってきたものから作っていただいている。木は豊富にあるので有効活用できれば、木を切ってくると思う。針葉樹については、一部公営住宅にも活用している。本当はもっと価格があがってくれば林業もがんばれると思うが。ただ、間伐材がチップとか、そういう部分で活用され出したので、これから山が動くと思い、このような書き方をしている。

【G委員】 去年の台風で川に木が流れてきて、漁業の網などにけっこう被害があった。植樹をあまりしていないようだが。

【事務局】 木を切らないので、植樹がない。流れたのは、河畔林で川に生えていた木が流れたというのが大方だった。まだ木が生えているので、北海道室蘭建設管理部に対し漁業被害があるので、そういう木については切ってほしいとお願いをした。向別川は切っていると思うが。

施策③水産業の振興（P54～57）について

【G委員】 2. 担い手の育成・確保についてだが、新規のものだけが書いて後継者についてあまり書いてない印象を受ける。漁業も高齢化により人手不足。TPPについては、アメリカが二国間協定の方の話になるかもしれないという心配がある。あと、将来の漁業経営体数の推計はあるのか。

【事務局】 将来推計はないが、漁業に関しては農業ほど経営体数が落ち込んではいない。

【G委員】 目指す目標値のところで、栽培漁業対象種は今年からナマコが始まると思うので、目標数の3魚種はもう確定しているので、もう一つ増やした方がいいのではないか。

【事務局】 確認する。

4. 閉 会